

(3) 物価問題を中心に

物価安定政策会議第十回総会における挨拶

(昭和五十五年五月二十日 総理官邸大ホール)

物価安定政策会議の第十回総会の開会に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

物価の安定は、現下の国民の最大の関心事であり、政府としても最優先の課題として真剣かつ積極的に取り組んでまいったところでありますが、委員の各位には日頃、本問題に関し、数々の貴重なご意見をたまわり、深く感謝申し上げる次第であります。

わが国経済は、原油供給の制約をうけ、また、原油をはじめとする海外産原材料価格の大幅な上昇等厳しい経済環境にもかかわらず、自律的な景気拡大を遂げ、主要先進国のなかで西ドイツと並ぶ良好な経済状態を示しております。五十四年度の実質成長率は六パーセント程度と諸外国に比べ、高い成長を達成したものと見込まれております。また、雇用情勢も着実に改善し、最近の失業率は二パーセントを下回り、国際的にみて、極めて低い水準にとどまっております。

物価につきましても、前回の石油危機の経験にかんがみ、企業、消費者とも冷静に対応しており、また、

政府、日本銀行も海外からのインフレを国内インフレに結びつけることのないよう総合的な物価対策を早目に講じてまいりました。このため、前回のような狂乱物価といった事態には陥ることなく、わが国の消費者物価は、四月の東京都都区部で七・六パーセントと西ドイツにつぐ低い上昇率にとどまっております。卸売物価につきましても、四月、二四・〇パーセントの上昇となっておりますが、完成品でみれば、六・九パーセントとアメリカの二三・五パーセントに比べ格段に低く、西ドイツと並ぶ安定した上昇率となっております。

このように、困難な経済環境の中にありながら、わが国が、先進諸国のなかで、成長、物価、雇用等の各方面にわたり、良好な経済パフォーマンスを示し得たのは、各分野における省エネルギー努力、生産性向上努力等の成果であると考えております。

本年の春闘において労使双方が現下の困難な経済情勢に理解をもって良識ある対応を示したことも、引き続き良好なわが国経済の運営に資するものと考えております。

一部に、最近の物価情勢に対処して、国民生活安定緊急措置法等を発動し、価格介入すべきであるという意見もありますが、政府としては、市場メカニズムを活用しながら、物の需給の均衡を図り、生産性の向上を促し、民間の自由な自発的な創意を生かした、経済運営に努めることが基本であると考えております。

もとより、最近の物価情勢は、原材料価格の上昇が、徐々に最終製品価格に波及しつつあり、一層緊張した姿勢でこれに対処していかねばなりません。

政府としては、去る三月十九日に定めた総合的な物価対策を基本として、財政、金融面からの総需要の管理、便乗値上げ防止のための個別物資対策、適切な物価情報の提供等、各般の対策の推進に全力をあげてまいる決意であります。

さらに中長期的観点に立つて、生産性向上と供給面の構造改善を進めるとともに、財政面からのインフレーションを招くことのないよう、節度ある運営を期さねばならないと考えております。

最近にいたり、行き過ぎた円安の是正がみられ、また海外商品市況にも落ち着きがみられます。これらは、卸売物価、ひいては消費者物価の安定にとって好影響を期待できる動きであります。政府としても為替相場の安定に周到な配慮を払いながら、このような円高等の動きを物価の安定に結びつけるよう十分努力してまいりたいと考えております。

ご承知のとおり、近く衆参両院の議員選挙が行われる政治情勢となつておりますが、国政に一瞬の停滞も許されません。特に、物価問題は、ここしばらくが正念場と考えております。政府は、財政、金融両面の現在の引締め基調を堅持し、また、その他各般の物価対策に全力を注ぎ、現在の難局面をなんとか乗り越え、物価の安定を確保していきたいと考えております。

本日は、せっかくの機会でもあり、委員各位の率直なご意見をうかがい、今後の政策運営に役立てたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

大平首相はこの日午後、日本記者クラブで内外記者団と会見したが、外人記者から「省エネルギー」という言葉は外務省、文部省などを連想させ、官僚的なにおいがする」との『珍質問』が飛び出した。これに対して「中央組織に省がついたのは、国民的立場でムダをしないよう、省みながら行政をやるとのことだ」ともっともらしい答弁で応じた大平首相、官邸に戻ってからも「たまには学のあるところをみせねばねえ」と満足げな表情。もっとも東洋史学の学説によると、もともと中国では省の下に役所を表わす言葉があつたが、日本に伝えられたとき、それが欠落、省自体が役所を意味する言葉になってしまったという。この「省論議」をめぐる首相の「学」と東洋史の「学説」果たして軍配はどちらに。

(共同通信政界談話室 54・6・21より)